



令和5年2月

桃山中学校ハッピー桃太郎だより

～誇りのもてる学校をめざして～



「公言実行」

校長 寺本実春

この冬は、10年に一度と言われる強い寒波に見舞われ、まだまだ寒い日が続いていますが、暦の上では春の始まりである立春を迎えました。

さて、1月28日に2年生が「立志式」を行いました。文字どおり「志を立てる」という意味で、生徒一人ひとりが自分の志を発表しました。『立志は万事の根源なり』これは吉田松陰の言葉で、「志を立てることからすべてが始まる」という意味です。自分はこの人生を歩みたい、社会にこのように貢献したいという心の持ち方こそが志であり、志が高い人ほど常に自分を磨き、さらに上をめざして努力を続けることができるのです。

将棋棋士の藤井聡太さんは、14歳2か月でプロ入りし、数多くの最年少記録を保持しています。そんな藤井棋士が、14歳の時に受けたインタビューで羽生善治棋士について聞かれ、こう答えています。「ただ、遠い存在として憧れていたんですけど、自分の頑張り次第で当たるところまで行けるので、羽生先生と当たるところまで登りつめないと、と思いますし、憧れからは抜け出さないといけないと思います」さらに、「将棋を突き詰めていくこと、強くなることが自分のすべきことだと思います」とも言っています。志を果たすための努力を怠らず、羽生棋士との対戦を実現させ、さらに上をめざす姿勢に感服します。また、対局後の礼の深さ、対戦相手よりも先に頭が上がることのない、礼を尽くす姿を見て、その謙虚さこそが強くなる要因の一つだと考えています。藤井棋士の語彙力の高さはすごいとよく言われます。その中の二つをあげると、「自分の実力からすると望外です」（望外とは、望んでいた以上によい結果であること）、「20連勝できたのは、僥倖としか言いようがない」（僥倖とは、偶然に得られた幸運）。このように、決して驕ることのない言動、その姿勢に大きな伸びしろを感じます。立志式を迎えた生徒たちにも、それぞれに伸びしろがあります。これからも、志に向けて努力を怠らず進んでいってくださることを期待しています。

AFPY研修会（1年生）

2月1日（水）、1年生107名が外部講師の御指導の下、AFPY(アールピーエー)の研修を行いました。AFPYとは、「豊かな人間関係を築くための考え方や行動の在り方を学ぶこと」で、今回は2年生への進級を前に、集団力や自治力の向上をめざすことも目的に加え、レクリエーション活動を行いました。

徐々にレベルアップしていく課題に対し、協力して解決するたびに歓声も大きくなり、一体感が深まったように感じました。最後の振り返りの場面では、「お互いに信頼し合いながら協力し、失敗しても励まし合い、新たなことにチャレンジできる集団になってほしい」という講師の意見に対して、生徒たちは大きく頷きながら真剣に耳を傾けていました。

今回の経験が、今後の学校生活はもとより学校外での場面でも、大いに生かされることを願うばかりです。【文責: 柘野】

